

お薬の相互作用(のみ合わせ)に注意

お薬を服用する際には、他のお薬や食品・サプリメント等との相互作用(のみ合わせ)に注意が必要です。相互作用は、重要度に応じて併用禁忌(併用しないこと)と併用注意(併用に注意すること)に分類されますが、非常に多くの組み合わせがあります。しかも、それは現時点で分かっているものだけです。

例として、あるパーキンソン病治療薬の使用上の注意(相互作用の項)を下に示します。

3. 相互作用

※(1)併用禁忌 (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状 措置方法	機序 危険因子
ベチジン塩酸塩 オピスタン®等 トピマド [®] 、ルビカ [®] 、 トピマド [®] 、ルビカ [®] 、 トピマド [®] 、ルビカ [®] 等	高次の興奮、精神錯乱等の発症が報告されている。なお、本剤の投与を中止してからトピマド [®] 、ルビカ [®] の投与を開始するには少なくとも14日間の間隔を置くこと。またトピマド [®] 、ルビカ [®] から本剤に切り換える場合には2～3日間の間隔を置くこと。	機序は不明である。
非選択的モノアミン酸化酵素阻害剤 サフラジン塩酸塩	高度の起立性低血圧の発症が報告されている。	詳細は不明であるが、相加作用によると考えられる。
三環系抗うつ剤 アミトリプチリン塩酸塩等 トリプタノール®等	高血圧、失神、不全収縮、発汗、てんかん、動作・精神障害の変化及び筋強剛といった副作用があらわれ、更に死亡例も報告されている。	詳細は不明であるが、相加作用によると考えられる。
選択的セロトニン再取り込み阻害剤 フルボキサミン塩酸塩 ルボックス®等 パロキセチン塩酸塩 水乳剤 パキシル® セルトラリン塩酸塩 ジェイゾロフト [®] エスシタロプラム シユロ [®] 塩酸塩 レクサプロ [®]	両薬剤の作用が増強される可能性があるため、本剤の投与を中止してから選択的セロトニン再取り込み阻害剤、セルトラリン再取り込み阻害剤、選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤及びフルアドレナリンセロトニン作動性抗うつ剤の投与を開始するには少なくとも14日間の間隔を置くこと。	セロトニン再取り込み阻害作用があるため、脳内セロトニン濃度が高まると考えられている。

(2)併用注意 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状 措置方法	機序 危険因子
セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 ミルナシフラン塩酸塩 トレドミン® デュロキセチン塩酸塩 サインバルタ®	また本剤に切り換える場合にはフルボキサミン塩酸塩は7日間、パロキセチン塩酸塩塩水和物、セルトラリン塩酸塩、アトモキセチン塩酸塩、ミルタザピン及び、スチグマジンシユロ [®] 塩酸塩は14日間、ミルナシフラン塩酸塩は2～3日間、デュロキセチン塩酸塩は5日間の間隔を置くこと。	脳内モノアミン経量の増加が考えられている。
選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 アトモキセチン塩酸塩 ストラテラ®		脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まると考えられている。
ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤 ミルタザピン レモロン®等		

薬剤名等	臨床症状 措置方法	機序 危険因子
肝臓のチトクロームP-450 2D6及び3A4の阻害作用を有する製剤 ^{注1} ： シメチジン キニジン硫酸塩 プロパフェノン塩酸塩 ハロペリドール エリスロマイシン ジユサマイシン クワリシロマイシン イトラコナゾール フルコナゾール ミコナゾール クロトリマゾール エチニルエストラジオール ベラパミル塩酸塩 ジレグアラム塩酸塩等	本剤の作用、毒性が大體に増強される可能性がある。	本剤は肝臓のチトクロームP-450 2D6及び3A4によって代謝されることが判明しており、これを阻害する薬剤との併用により血中濃度の上昇をもたらす。
レナルビン誘導体 レナルビン等	本剤の作用が減弱される可能性がある。	脳内ドパミンを減少させる。
フェノチアジン系薬剤 プロクロルペラジン クロルプロマジン ペラジン等 ブチロフェノン系薬剤 フロペリドール等 スルピリド メトクロプラミド	本剤の作用が減弱される可能性がある。	脳内ドパミン受容体を遮断する。
トラゾドン塩酸塩	相互作用は明らかになっていないが、トラゾドン塩酸塩の中止直後あるいは併用する場合には、本剤の投与量を徐々に増加するなど、慎重に投与を開始すること。	セロトニン再取り込み阻害作用があるため、脳内セロトニン濃度が高まると考えられている。
交感神経興奮剤 エプアドリン塩酸塩 メチルエフェドリン塩酸塩 ソニルプロパノール アミン塩酸塩含有医薬品	血圧上昇、頻脈等の発症が報告されている。	本剤のMAO-R阻害性が低下した場合、交感神経興奮作用が増強されると考えられる。

注1) これらの薬剤と併用する場合にはモノアミン含有量の多い食物(チーズ、レバー、にしん、酵母、そば豆、バナナ、ビール、ワイン等)との併用には注意すること。[チトクロームP-450 2D6及び3A4を阻害する薬剤と併用する場合には本剤の血中濃度が上昇し、MAO-Rの阻害性が消失する可能性がある。]



薬局で併用薬についてお尋ねすると、「医師に伝えてあるので…」とおっしゃる方がいます。確かに医師に服用中の薬を伝えておくと、併用禁忌に該当する薬や同じ成分の薬が重なって処方されることはありません。しかし、併用注意の組み合わせが処方されないわけではありません。治療上やむを得ない場合が多いからです。

そして、それをチェックするのが薬剤師です。

薬剤師の役割は、「併用禁忌」の確認に加え、「併用注意」についても相互作用の影響を考慮し、必要な注意事項を皆様にご説明することにあります。お薬の相互作用(のみ合わせ)のチェックは、薬剤師にお任せください。



— 相互作用(のみ合わせ)のチェックのために、お薬手帳をご活用ください —